



SGH課題研究「グローバル課題4領域について知り、気づき、探る学習」

ーグローバル課題4領域の概要を知り、その現状や課題に気づき、解決策のヒントを見つけるー

「国際開発」編 -JICA の講演から学ぶ-

開催概要

- ◆ 日 時:平成 29 年 6 月 3 日 (土)3~4 時限 [10:50~12:40]
- ◆ 場 所:中部大学春日丘高等学校 東校舎 2 階会議室
- ◆ 参加者:啓明コース及び国際コース1年生(計 127 名)
- ◆ 講師:JICA 中部 伊藤 英樹氏
- ◆ 学習のねらい:
 - ① 専門家による講義の内容から、この領域の現状や課題について理解する。
 - ② 「わかったこと」「もっと知りたくなったこと」という観点から講義を振り返り、講師に質問をする。
 - ③ 講義の感想をまとめ、次回以降の活動に活かす。

1. 専門家の講義

「国際開発にかかる事例紹介～アフリカの現状とマラウイでの JICA の開発協力について～」

- ①生徒は、講義メモを取りながら話を聞いた。

《講義の内容》

- ・アフリカのイメージ…自然、紛争、砂漠、貧困 などが多いが、高速道路や高層ビルが並ぶ国や、大型貨物船が行き交う港、稲作、バラ農園など活気あふれる街も多くある。
- ・成長するアフリカ…2.3%の人口増加率。人口が 2050 年には 21 億人に。経済成長率は 5.3%。
- ・日本との貿易:日本の輸入品…エビ、タコ、カカオ、コーヒー豆、レアメタルなど 日本の輸出品…自動車、建築機器など。
- ・課題…4 人に一人は学校へ行けない。乳幼児死亡率が高い。栄養失調の子どもの多さ。
- ・国際協力の必要性:途上国の問題は世界の問題。相互依存の世界だからこそ協力を。援助を受けていた国としての日本の経験
- ・JICA の活動…ODA(政府開発援助)を通し、多国間協力(国際機関を通じて開発途上国を協力する)と二国間協力(日本から開発途上国に直接協力する)を行う。その二国間協力には、有償資金協力、無償資金協力、技術協力、国際緊急援助が含まれており、市民参加の協力やボランティア派遣まで行っている。
- ・実例として、マラウイでの活動紹介。



マラウイでの活動事例の講義



講義の様子



熱心に聴き入る生徒たち

■ 2. 質問

- ①講義を聞いた後、グループに別れて感想を共有し、疑問に思ったことやさらに知りたいと思ったことをまとめ、講師への質問を考えた。
- ②代表グループが質問をした。

《質問と応答》

- Q1 お話の中にアフリカの人口増加率が高いとありましたが、人が増えるるとどのような良いことがありますか？
⇒ A 人の力で産業が発展し、経済成長率が上がっていくなど、様々な可能性があります。
- Q2 国際協力の中に井戸の普及活動がありましたが、整備なども教えているのですか？
⇒ A 整備や管理の仕方などの技術を教えています。
- Q3 アフリカにも発展している都市と、発展していない地方がありましたが、都市と地方を結ぶ手段はあるのですか？
⇒ A 都市と地方を結ぶインフラは道路。都市と地方の行政が協力をして整備をしています。
- Q4 青年海外協力隊にはどんな仕事があるのですか？
⇒ A 教育面では「先生」として勉強を教えたり、現地の学校のカリキュラムを作ったりするなどの他、医療面では「看護師」として現地の医療に携わるなど様々です。
- Q5 防災に関する協力はしていますか？
⇒ A マラウイでは、JICAは防災支援を行っていませんが、災害が生じた際は緊急援助物資を供与したり、防災に繋がる植林の支援をしたりしています。
- Q6 国際協力・開発の活動でやりがいを感じたことはどんなことですか？
⇒ A マラウイで灌漑用水を普及させるプロジェクトに携わったとき。日本が積み上げてきたものが形になったのだから実感できました。



グループで質問を考える生徒たち



さらに質問を深める生徒たち



質問をする生徒

■ 3. 感想

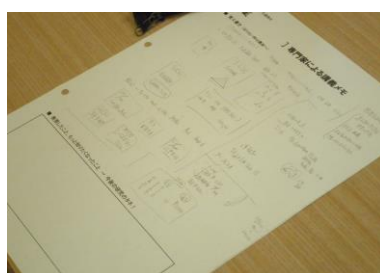
最後に、講義を聞いた感想をまとめた。

《生徒の感想より》

- ・以前からJICAや青年海外協力隊に興味があったが、今日の話聞いて興味が深まった。
- ・先進国が途上国を支援するのは、途上国のためになっていない部分もあるのだと思った。
- ・自分が大人になったとき、どのように海外へ支援をすればいいのかを考えていきたい。
- ・もともと植民地支配をしていた国が責任をもって援助をしていくべきではないか。
- ・途上国の人々の苦しみに同情するだけでなく、共感と理解をして貧困などの問題を解決しようと思うべきだ。
- ・貧しさとは「お金がない」という状況だけではないのだとわかった。
- ・途上国がどのような支援を求めているのかを理解し、適切な支援を行うことが必要だと感じた。



講義内容を細かくメモした生徒のプリント



講義内容をまとめ、図にする生徒も



友人のメモ・感想を熱心に見る生徒も